

議事要旨

第1回やすらぎ堤デザイン検討委員会

日時：平成27年2月5日（木）14：30～17：00

場所：NST 3F 会議室ゆめディア

- 議事次第：1. 開会
2. やすらぎ堤デザイン検討委員会の設立等について
 3. 検討の進め方について
 4. 検討の観点・視点に係る現状について
 5. 検討事項に関する方向性について
 6. 閉会

1. 開会

瀬崎信濃川下流河川事務所長より挨拶
事務局より委員紹介

2. やすらぎ堤デザイン検討委員会の設立等について

規約（案）が、委員により承認された。
委員の互選により、岩佐明彦委員が委員長に選出された。

3. 検討の進め方について

委員：河川区域とその他の間を繋ぐような、河川区域外に拡がるような設備も検討課題の中に含まれていると考えて良いか。検討は、やすらぎ堤本体のみを指すのか、それとも区間の水辺空間全体を指すのか。

事務局：やすらぎ堤区間の河川管理施設及びやすらぎ堤緑地と言われる公園の部分について、方針と整備を議論頂くと考えている。

委員：市内地と水辺空間を結ぶ歩道施設は検討対象になるのか？

事務局：事務局として主に議論頂きたいのは、河川と水辺空間であるが、条件としてまちとのインタラクションの部分についてもご意見を頂きながら、事務局が実現できる範囲内で関係部局等に今後働きかけていくことが出来ると思っている。

委員長：議論できるところと参考にしていただけたところがあると思うので、議論・確認しながらできればと思う。

4. 検討の観点・視点に係る現状について

委員長：自然環境の保全に関して、どれくらいの頻度で調査をしているのか？

事務局：定期的に植生・魚類・鳥類等、部門毎に調査している。5年が基本だが、あまり変化がないものは、10年間隔のものもある。

委員長：特にやすらぎ堤の場合は、大きく変化していないということか？

事務局：やすらぎ堤が水面域に大きく張り出した形状で整備するので、環境が大きく変わることについては、気を付けて観察しているところである。

委員長：観察しながら問題なく進んでいると理解した。

委員：安全確保について、基本的な考え方は？

事務局：やすらぎ堤は、人を呼び込むといった意図で整備されている。安全への配慮を両立させる中で親水性を持たせる。

事務局：今のところ直立護岸の所に柵があれば義務は果たせていると考えている。階段部分はやがグレーな所はあるが、今のところ大丈夫であろうという見込みを持っている。階段護岸整備するものに新たに柵を設けるつもりは考えていない。ただ沖合が深くなっている部分については、注意が必要と考えている。委員会で意見があったら対応していきたい。

委員：現状の利用と動向について、調査やデータ等はあるか？

委員長：平日と休日だと使い方が違う。ほぼ道路みたいな時間帯もある。今後整備していく上で動線計画が重要だと思う。

委員：イベントや自然環境保全も大事だが、普段日常的に使う道という意識を市民も持っていると思う。

事務局：詳しいデータはないが、平成 25 年 5 月 24 日朝夕の時間帯で利用が集中して、全体で 87 人の利用があった。平成 25 年 1 月 15 日冬場の朝夕の時間帯で、全体で 1600 人となっている。次回整理をして出したい。

委員：未整備区間が完成する時期は、いつか。

事務局：この機会にデザインをとりまとめて、予算等を含めて、いろいろな所に働きかけることにより、整備が加速できないかと思っている。河川事務所としても、積極的に進めていきたいと思う。

委員：これからやすらぎ堤を利用する層は、小さい子供もどんどん増えてくると思う。子供に危険がないような検討も必要ではないか。サインは、読めない子供がいるので、デザインの専門家に絵でわかるようなサイン、統一感のあるようなサインが必要だと感じる。

委員長：安全を確保する対策として柵以外にデザイン上の工夫もあるかも知れない。

事務局：ルール of 整理について本委員会に検討してもらいたい。護岸・柵等を今まで使ってきたがこれでいいのか、悪いのか、改良の余地があるのか、皆さんのアイデアをいただきつつとなるが、サインデザインもピクトグラム、絵的な物も案として考えているので、意見をいただければと思う。

委員長：外国人もいるので、サイン等をユニバーサル化していくことが非常に重要な課題なので引き続き議論したい。

委員：水面利用として防護柵、転落防止柵はあたりまえ。安全確保の中で船舶の航行ルールという決まりがあり、基本的には遵守しなければいけないが、流木があり難しくなっている。行政機関で河川の水の中の清掃をやっていただきたい。河岸と水面をセットで考えて欲しい。

事務局：船が利用する、公的な関係で水路として維持しなければいけないというものについては

、港湾管理の中で指定して、この部分については船舶が安全に航行できるように維持されることもあるが、やすらぎ堤の萬代橋より上流側の区間は、船舶の航行を常に安全にしておくようなことが、なかなかできない。ただ、河川に不法投棄物があり危ないとかいうことはあるので、巡視などで気づいたものに対しては、極力、可能な範囲で除去、河川管理上支障があると水門が閉まらない等含めて対応をする。

委員：できれば7月のクリーン作戦で台船等をなどで参加いただければ、ありがたい。

事務局：できるだけ協力できることはしていきたい。

委員長：今回の議論は収まらないが、非常に重要な部分と思うので、何らかの形で議論を続けていただければと思う。

委員：最近ウォーターバイクが上流に上ってくる。これからやすらぎ堤を開放していくと、そういう方たちも増えてくると思うので、利用の方法を伝えていくことが必要。安全上の直近の対策として、柵の部分にロープを付けた浮き輪など、お金をかけないですぐできるものとしてある。

委員長：安全対策に関しては、起こることを防ぐのもあるが、起きた時にすぐにフォローするための準備もあると思う。航行ルールは整備すればユーザーが増えるので、意思疎通をしてルール徹底が課題。

事務局：看板類を付けることは河川管理者でやっている。団体等に連絡するパイプもあるので話をしていきたい。

委員長：経年変化の中で劣化、再整備が必要になっている所もあると思うが、インフラの更新等非常に厳しい時代が来るが、耐久性のあったもの、維持管理に手間がかかっているものなど、ここまでの経年変化に関して、評価を教えてください。

事務局：やすらぎ堤は約30年位経過したが、今日現地で階段護岸が陥没している所も見てもらった。植生については、管理は非常に難しいという課題がある。現状の診断を最近始めている。相対的な評価については、調査中である。

5. 検討事項に関する方向性について

(未整備区間のデザイン検討、整備済み区間の改良デザイン検討について)

委員：この方針についての話を始めるのか？今日は説明を受けるだけで中身についての議論はこれからになるのか？

事務局：5ヶ所ポイントを話したが、そこに関して、今回基本コンセプトはいろいろ意見を頂き、コンセプトを議論頂いた上で、次回の委員会の中で3番目のポイントで示したパース図等を示していきたい。そういった意味でコンセプトがある程度まとめれば1つのパースで示すことになるし、競合して無理であれば、2つの案を示すことになると思う。大きなコンセプトから場合によっては、細かい部分についても、自由に与条件だけを示して、議論頂ければと思う。次回でも方針転換等あると思うが意見を頂きたい。3番目に紹介した関新地区については、油分の塊が地中に埋まっていて、与条件がかなり厳しい。そういう中で、少し踏み込んで具体的にパース図を示して、意見を頂きたい。5ヶ所でいろいろな意見を頂けたら、次回までにまとめて絵にしたい。

- 委員：立体歩道橋が兩岸赤い印で示されているが、これは市の計画ということでよいか。
- 委員：新潟市の都市再生整備計画で検討されている。
- 委員：マンション計画のあるところで、建物を利用して信濃川やすらぎ堤へのアプローチという論議もあったと思うが、どうなっているのか？立体歩道橋をもっと水面の上まで伸ばすことができないか。河川区域の中で橋脚を建てることは可能かどうか。
- 委員：マンション計画の件は、計画構想を前提に市が補助をして整備するという方向性を進めていたが、現時点で計画は凍結されていて、市の補助を前提とする整備になるのか、ならないのか不透明。河川管理者側の意見も参考にする必要があると思うがどこまで張り出すことができるかは、排除しない考え方として考慮できる。
- 事務局：橋脚が堤防に掛かるのか、護岸に掛かるのかといった位置関係で難しい範囲がある。水面に建てるものについては、洪水時の流水護岸を壊すとか壊さないといった所をチェックできれば可能になると思う。
- 事務局：実際に計算はしてみないとわからないが、ありえると思う。
- 委員長：飛び出したら相当な視点場になるのは間違いない。
- 委員：今の資料に含まれていないと思うことで、これだけまちに近い水辺であれば、世界的に見れば人が集まっていると思う。諸外国でうまくいっている事例を収集・整理して議論できる資料整理が追加されるとよい。特に集まってほしい層としては、若年層、若い世代が集まってくることが、その先の町の全体的な活性化、底上げになってくるのではないか。今の信濃川の水と陸地の線の境界を見ると、すーっと入りやすい部分が少ないので、水に近づきやすいという観点からもデザインの詰め方があると思う。人が集まる効果として、水に関心を持ちやすくなる、自然災害に対しての関心を日常的に高めるのが大事。水に触りやすい場所が海岸だけではなくて川にもあれば、潜在的な防災のコストということが縮減されてくると思う。水にアクセス・アプローチしやすいのもデザインの方向性に盛り込んで頂きたい。
- 委員長：資源の最大化という意味でもう少し海外の事例を資料としてリサーチした方がいいというご指摘と、親水性に関して、災害防災意識という観点も含めて、もっと多様なデザインがあるのではないかと指摘だと思う。
- 事務局：1月31日にミズベリングを開催して、その中で海外の事例等も紹介しながら賑わいづくりの議論をした。利用面のしやすさは施設デザインと関係があるので、この委員会の中でも事例を紹介するよう、次回用意したいと思う。
- 委員：ヨーロッパの町も相当気温が低くて、プラス5度以上になることは少ないが、冬期でも人がいる。それを考えると、冬期の視点から収集してみてもどうか。手が広がらずに一点集中で集めることをやってみてはどうか。
- 委員長：オランダとか、明らかに冬は寒そうだがイキイキ使われている。海外の事例とかどうか？ミズベリングで事例については議論していると言うことだが、今後そういう資料を考えているか？
- 事務局：事例収集を行いミズベリングやこの会議でも紹介したい。
- 委員：デザイン検討の優先順位を示していただけると有り難い。現状だと近郊に駐車場がな

いとなかなか水辺にいけない。万代周辺にしても、駐車場利用、車の部分が当然関連してくるので、二次交通的なものが、徒歩なのか自転車などかという観点を加えると、それによって、こういう土手であるべきということが見えてくる。海外の例ですと水辺に大きな木陰があってという、イメージがある。優先順位と可能不可能という部分では、そのへんを整理してもらえると、あれもしたいこれもしたいと提案できるので、検討頂きたい。

委員長：優先順位とどの位の事が可能かという範囲だと思う。

事務局：優先順位はコストの問題、施工時間の問題も踏まえて、次回の会議の中で示したい。木陰については、工夫ができるかどうか、次回の会議で検討できるような資料を出したい。

事務局：優先順位は治水上、未整備区間で堤防が低い関新区間、その次に新光町下流区間になると考えている。既に整備されている区間については、補修が必要な所を並行してやれたらと思っている。木については、堤防斜面、護岸の近くは難しい。幅広い高水敷があるところでは、真ん中にポツンと木を植えることは可能になるかもしれない。構造物の近く、とりわけ堤防の近くは治水上の安全からも難しい。

委員：やすらぎ堤の八千代橋から萬代橋の区間は新潟にとって大きな資産である。ここを活性化させるのが、新潟のまちづくりに欠かせない部分。浮島を作るとか、栈橋を出すとか、人と水が近接する場所を整備した方がいいのではないか。毎秒 1000 立米の川の水を流すということに対して、この空間の中に設置が可能なのか？次回までに示して欲しい。道頓堀では、栈橋を張り出して、水辺の空間を狭めながら、こういう空間を演出している、ミズベリングでここに対する具体的な検討もしくは話し合いがなされたか？

委員長：流量計算上、どういうことが可能か。ミズベリングを含めた民間の動向について。

事務局：治水上の観点で、計算して許容の範囲は示すことはできるが、今日はデータを持っていないので次回わかりやすい形で示したい。ミズベリングの時に大阪の道頓堀でやっているような事例がどうかと言った具体的な所までは出ていない。

委員：民間がここを活用するという前提において、ミズベリングのような会議はかなり重要だと思う。

事務局：民間のやってみたいという方々とは今後も引き続き意見交換をしながら、そういう動きがあれば是非対応していきたい。

委員：市としても、萬代橋周辺まちづくり協議会が 3 年前立ち上がった一番の目的は、エリアマネジメントを信濃川という財産を中心にできないか。それをやるためには、行政だけで凝り固まった取り組みでは難しく、民間の力と言うか、経営的なことや資金を回すということが大前提になると考えて進めてきている。市としてもミズベリングについては、前のめりで関わっていきたいと思っている。

委員：昨年の夏、まちなかアウトドアというイベントを 8 月の土日に開催した。萬代―八千代間のデザイン検討に繋がるが、NST の対岸の左岸でカヌー乗り場を設定して、2 日間楽しんでもらい、NST 側でもウォーターバルーンという面白い仕掛けをした。年に 1 回や 2 回のイベントだけではなく、恒常的にカヌーが出来るような仕掛け、前提として水面利用をどう捉えるか、航路の話、ユーザーが増えると逆に危険という指摘があった。年

に1、2回ではなく毎週末でも提供できる装置、ソフト・ハードが必要だと思うが、ユーザーが増えると300mの川幅の中で密度が高まって、ウォーターシャトルも航行しているし、そういう問題も起こるので、水面利用をどう考えていくかということは重要な課題だと思う。やすらぎ堤は非常に親水性が高く、世界的に見ても都心の中のこれだけの河川で親水性の高い河川はないと思う。これを活かしてディテールを検討して頂きたい。

(設備等の整備に係る基本方針の検討)

委員：今の現状のデザインが問題だと思っており、このような会議は必要。例えば萬代橋周辺の防護柵が決して美しくない。海外事例について、オーストラリアのブリスベンでは、水上バスが20隻以上走っている。町のテーマも「The River」という。整理する予定なので、参考にしてもらえればと思う。

委員長：シビックデザインという指摘があったが、ここだけで決めるのではなく、新潟市全体ですりあわせが必要だと思う。情報提供いただければと思う。

委員：景観計画の制度上、景観アドバイザーという外部委員の方々にもお願いしている。例えば、色、形、意匠についても活用頂いて、景観審議会でも議論しているし、萬代橋周辺まちづくり協議会でも萬代橋を中心とした信濃川の景観のあり方を議論しているので、情報を頂いたり、アドバイザーの意見を参考にしてたたき台を作る時に入れていただければと思う。サインの統一もあるが、市では都市サインマニュアルというものがある。様々なことについて統一的なことが定められているので、手戻りがないようにたたき台づくりの時に都市施策と協議頂ければと思う。

委員長：市ではアドバイザー制度はあるが、デザイン監修のようなことをやっているか。1人全体をコーディネートしてくれる存在があれば、統一的にデザインできる。

委員：デザインの専門職を常にお願いはしていないが、横浜市が取り組んでいたような都市デザイン室的な業務、事務を分掌するような組織を新年度から立ち上げられないかと考えている。それを上手く関わらせていければと思っている。

委員：デザイン関係で気になった点があった。色や形を中心に話題が進んでいるが、もう1つ時間の尺度も重要だと思う。時間の尺度の意味は作ると経年劣化、変化するが、劣化ではなく、経年変化になるように、時間に耐えられるものという考え方を入れてはどうか。材質を選んだり仕上げをする時に時間の尺度、時間に耐えられるものを入れられたらと思う。公共的な物に対しては過剰な投資はできないが、経年変化になるように、劣化を避けることも提案したい。

委員長：エイジング、わざわざレトロっぽくすることが流行っているご時世なので、物としてちゃんと作って経年変化することが劣化ではなく価値に繋がっていくようなデザインの選択だと思うが素晴らしいと思う。

委員：やすらぎ堤を利用する方々は目的も様々で、年齢も様々だと思うが、高齢者も利用するので、ベンチと日よけがある所は重要。

ワーカー：エリアによってどういうことが求められるか、それぞれ違ってくる。大きく分けると人がたくさん使う場所、例えば萬代橋周辺のように観光客、海外からの方も含めて利

用がされるような場所と、自然環境を優先すべき場所等がそれぞれあると思うので、視点として自然と利用の二つの方向性は、エリアを考えて、護岸があっているのかという議論に前段としては整理した方がいいのではないかと？結果は変わらないかも知れないが。人の利用に関わるエリアの議論になる時には、そのエリアはどのような使い方が望ましいかを、現実的にどう使われているかと合わせて再評価・検証しておく必要がある。これからはどうするか、利用をどうするかに合わせてニーズを読み込むというか、見通した方がいい。バリアフリーの観点もここには必要。管理者の立場で考えると、修繕する時にどうしたら長持ちさせられるか、直す時に直しやすい物、構造によっては難しいケースも出てくるので、そういった視点を入れた方がいい。

委員長：今後まとめる時の参考にできればと思う。

(欠席委員からのコメント紹介)

委員長：具体的なルール案、デザイン案を次回までに事務局で検討いただければと思う。

事務局：今回は、3月末頃の開催を予定したい。

6. 閉会

以上